

平成27年度 事業報告書

介護老人福祉施設 早蕨

デイサービスセンター 樹蔭

デイサービスセンター 庵

ホームヘルプステーション あおやぎ

居宅介護支援事業所 さわらび

高知市東部地域高齢者支援センター 五台山出張所

1. はじめに

感染症については、県下の発症状況の把握に努めるとともに、感染症予防の三原則（①感染源の除去 ②感染経路の遮断 ③抵抗力を高める）に努めた。結果として、ご利用者のインフルエンザ罹患者は0名であったが、施設職員で5名（A型：4名、B型：1名）、在宅部門で2名（A型：1名、B型：1名）の発症がみられた。

ノロウイルスにおいては、職員に2名、ご利用者に4名の発症があったが症状も軽微に抑えることが出来た。

「未使用空間の利用」に関しては、今までの生活習慣もあるが、おやつ等の間食をしたり、小グループで余暇活動を楽しんだり、活用の頻度は増えている。

新たに立ち上げた「教育指導部門」では、各ケアマニュアルの見直しを実施。入社時の集中研修をはじめ、職員が半年毎に自己評価を行うことで自己レベルの再確認とケアの統一に努めた。結果、事故を33%、ヒヤリハットを6.5%減少することが出来た。

平成27年度は、“説明の出来る統一されたケア”を目指し、基礎再確認に努めた一年であった。

2. 早蕨（特養）

（1）基本方針

①「生活の場」としての施設援助

施設の基本理念「誠実な心、優しい心、進取の心で利用者の生活に「安心」をもたらします」を常に職員間で確認しながらケアを行った。

② 個別ケアへの取り組み

一人ひとり個別の状態を把握するため、日頃から心身の状態を観察する。
多職種で意見を出し合いケアプランを作成し、解決すべき課題には優先順位を付けて取り組んだ。

- （1）生命に関すること
- （2）利用者・ご家族の要望
- （3）その他優先すべき解決課題

以後、状態に変化（疾病、事故、褥瘡形成等）が見られた際、要介護度に変更があった際、ご利用者やご家族から希望があった際、期限が満了した際には担当者会を開催しご利用者とそのご家族が満足できるように対策を行った。

③ 職員研修の実施

職員の育成と教育のため、職場内外での研修を年間を通して計画的に取り組んだ。施設外研修では、職員が階層別研修、専門的ケア研修に参加し、社会人、組織人として

の基本的な考え方や福祉の専門職としての知識・技術のスキルアップに努めた。施設内研修では、全体会にて月別にテーマを決めて学習し、特養部会では委員会や研修参加者が課題をテーマにグループワークを行った。

又、平成 28 年度さいたま市ユニット型特養の開設にあたり、ユニットリーダー研修への参加及び他施設（ユニット型）への研修にも参加することで、ユニットケアについての実務についても学ぶことが出来た。

（2） 介護方針

① 離床対策

基本的にホールで食事をして頂くことで寝食分離に努めた。身体上座位がとりにくい方に対してもリクライニング式車椅子を活用する等して、離床時間を確保するように努めた。施設初となる胃瘻の受け入れも行い、リクライニング式車椅子を使用しホールにて食事の提供を行った。

② 認知症入居者への対応

認知症介護実践研修・リーダー研修後のステップアップとして、介護認知症指導者育成研修が仙台にて行われ介護主任が参加した。施設内では、ケアサービスについて、認知症の方が安心して生活するにはどうしたらよいかを特養部会等の勉強会を通じて職員協働のもと取り組んだ。

③ 身体拘束ゼロ・虐待ゼロの推進

身体拘束防止委員会、虐待防止委員会を中心に、研修への参加を増やし、その内容をフィールドする型で勉強会を行う等して、拘束、虐待に対しての職員の意識を高めた。平成 27 年度も身体拘束事例は 0 件で、虐待事例も無し。施設全体での勉強会や部会など、年間 4 回の勉強会での学びを通じて介護の質の向上に繋げた。

④ 在宅復帰

平成 27 年度は在宅復帰された方はいなかったが、カンファレンス時などご家族の意見も聞きながら、6 ヶ月毎の担当者会を通じて在宅復帰の可能性について検討した。

（3） 生活援助方針

① 食事

平成 27 年度も毎日の食事の内容について、職員、利用者の両面から聞き取りを行い毎月の給食委員会で検討した。食材では、国産、地産地消に努めるとともに嚥下機能の低下が見られる方やミキサー食を提供している方に対しては福祉大学が開発したゲル食を提供することにより改善効果が得られた。今後も嚥下困難な方にはタイムリーに提供できるように管理栄養士と協働で誤嚥性肺炎の防止に努める。介護面では摂取時の姿勢などにも留意し健康状態の維持に努めた。

② 口腔ケア

横山歯科の医師の指示のもと、歯科衛生士の方から指導を受け、口腔委員会を中心に毎月、口腔ケア計画書、評価書を作成し、入居時と定例の年2回、又変化のあった時に口腔の状態チェックを行った。口腔内の清潔を図り、肺炎予防に努め体調維持向上を図った。

③ レクリエーション・クラブ活動

施設行事、季節行事、外出行事、茶道、華道、カラオケ、料理などのクラブ活動を企画し、多くの方に参加をしていただき楽しんで頂くことができた。地域行事では五台山夏祭り等にも積極的に参加し地域との繋がりを強化した。

④ 個別機能訓練

機能訓練指導員が自立支援に向け、個別機能訓練計画書を作成し、訓練を行った。機能訓練指導員が中心となり月・木曜日に2階利用者、火・金曜日に3階利用者に集団体操を行うことで機能の維持のみならず交流にもなっている。担当者会議の際には情報提供を密にし、残存機能の維持向上に繋げる事が出来た。

⑤ 排泄ケア

紙パンツからボクサーパンツに変更するなど、オムツ除去に努めた。又、排泄アドバイザーによるオムツのあて方講習会も行い、新人の技術力アップに努めた。困難事例に関しては、毎月一回委員会を開催し検討を行った。

⑥ 事故防止

介護事故報告書提出事故件数は6件であった。平成26年度より3件減である。発生場所では居室での発生が最も多く続いてホールでの発生となる。種類別では転倒件数が最も多く続いて表皮剥離の発生となっている。前年度に比べるとヒヤハットリスク2・介護事故発生件数合計で見るとマイナス12件となった。

しかし、同一利用者様の転倒骨折があり見守り体制や職員のケアの不統一など課題が残ることから、業務改善を行い対応に繋げた。ヒヤリハットから事故に繋がらないように高リスク者への検討会を早期に行うなど今後も積極的に行う。

(4) 利用者の状況

平成 28 年 3 月 31 日現在

① 現状

		男	女	計
異動状況 H27.4.1 ～ H28.3.31	入所	7	20	27
	退所	4	23	27
年齢 構 成 H28.3.31 現在	60～64	0	0	0
	65～69	0	1	1
	70～74	0	4	4
	75～79	1	1	2
	80～84	4	10	14
	85～89	6	12	18
	90以上	4	37	41
計				80

② 入退所の状況

	入所前の状況			入所者数	退所者の状況					退所者数	月末 在籍 者数
	在宅	病院	その他 (他施設から の転入等)	計	社会 復帰	家庭 復帰	医療機関 入院	その他 (他施設から の転入等)	死亡	計	
H27年 4月	2	1	1	4			3		1	4	80
5月	0	2	0	2			2		0	2	80
6月	0	1	1	2			1		1	2	80
7月	1	0	1	2			2		0	2	80
8月	0	1	1	2			2		0	2	79
9月	0	1	2	3			1		2	3	80
10月	0	0	0	0			0		1	1	80
11月	1	1	0	2			1		2	3	80
12月	0	1	2	3			1		0	1	80
H28年 1月	0	1	1	2			1		1	2	80
2月	1	1	0	2			1	0	1	2	80
3月	0	2	1	3			1		2	3	80
計				27	計					27	

③ 利用者の生活状況（平成 28 年 3 月 31 日 現在）

A 日常生活動作状況（80 人）

		人数	割合
移動	自立歩行	17	21
	一介付き添い	10	13
	車椅子	53	66
	計	80	100%
排泄	自立	5	6
	一部介助	14	18
	全介助	61	76
	計	80	100%
食事	自立	53	66
	一部介助	8	10
	全介助	19	24
	計	80	100%
入浴	自立	1	1
	一部介助	15	19
	全介助	64	80
	計	80	100%
整容	自立	4	5
	一部介助	49	61
	全介助	27	34
	計	80	100%
寝返り	自立	29	36
	一部介助	21	26
	全介助	30	38
	計	80	100%
着脱衣	自立	2	2
	一部介助	27	34
	全介助	51	64
	計	80	100%

B 面会者状況

回数	面会のあった利用者		
	男（人）	女（人）	計（人）
1	1	5	6
2～5	5	6	11
6～10	0	13	13
11～15	2	12	14
16～20	1	8	9
21～30	1	10	11
30以上	6	13	19
計	16	67	83

対象者：平成28年3月31日 在籍者

期 間：平成27年4月1日～平成28年3月31日

④ 外泊状況

外泊回数	男	女	計
0	11	66	77
1	0	1	1
2	1	1	2
3	0	0	0
4	0	0	0
5回以上	0	0	0
合計	12	68	80

対象者：平成28年3月31日在籍者

期 間：平成27年4月1日～平成28年3月31日

⑤ 特養入居、ショートの利用者数

【平成 27 年度利用者数の月別推移】

月 利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本入居	2,276	2,297	2,297	2,398	2,305	2,259
ショート (空床含む)	336	411	349	324	403	348
合計	2,612	2,708	2,646	2,722	2,708	2,607

月 利用者数	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均 利用率
本入居	2,337	2,238	2,327	2,332	2,213	2,393	27,672	94.51%
ショート (空床含む)	369	357	382	321	314	331	4,245	115.96%
合計	2,706	2,595	2,709	2,653	2,527	2,724	31,917	96.97%

【平均利用率の年別推移】

年度	H23	H24	H25	H26	H27
本入居	94.0%	93.2%	95.9%	95.3%	94.51%
ショート (空床含む)	102.5%	108.1%	98.7%	106.8%	115.96%
合計	94.9%	94.9%	96.2%	96.5%	96.97%

平成 27 年度行事実施状況

(備考)

月 1 回 *誕生日会 *外食 *料理クラブ *茶道クラブ

月 2 回 *ホーム喫茶 *カラオケクラブ *買い物

毎 週 *華道クラブ

その他 レク

月	日	行事
4月	1日	お花見
5月	7日	田植え見学
	21日	新緑ツアー
6月	3日	紫陽花見学
	11日	防災訓練
7月	25日	納涼祭
8月	24日	花火大会
9月	21日	敬老会
10月	2日	ドライブ
	4日	敬老運動会
	27日	観月会
11月	9日	菊見学
	13日	防災訓練
	17日	みかん狩り
12月	24日	クリスマス忘年会
	28日	もちつき
1月	7日	新年会
2月	3日	節分
	12日	ケーキバイキング
3月	2日	防災訓練
	3日	ひなまつり

3. デイサービスセンター 樹蔭

(1) 基本事業

生活指導、日常生活動作訓練、個別機能訓練、健康チェック、送迎、入浴、食事サービス、口腔機能向上訓練、相談・助言に関する事

(2) 目的・基本方針

在宅で要介護状態となった対象者に、デイサービス各種のサービス（送迎、入浴、食事、健康チェック、レクリエーション）日常生活動作訓練（リハビリテーション）を行い、在宅での閉じこもり防止、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上に努めた。

通所介護個別援助計画、介護予防通所介護個別援助計画に基づきご利用者にとって在宅生活に必要なサービスの提供や援助を行った。計画期間終了時にはサービスの評価を行い、状態にあわせて計画の継続・変更を行った。

プラン継続のご利用者がほとんどだが、一時入院されたご利用者等は状態の変化もありそれに応じて再検討することが出来た。

又、要支援対象者には、運動器機能向上訓練（パワーリハビリテーション等）・アクティビティ（創作・集団レクリエーション等）を実施し、生活機能の向上ができるように努めた。

(3) 年間行事

季節感のある行事の計画を担当職員が作成し、たくさんのご利用者が楽しみを持って参加できるように努めた。

毎月誕生日会を行い、誕生者の発表や、手作りの誕生日カードをプレゼントするなどの工夫にも努めた。また毎月 2 日間昼食やおやつ時には屋台を出し季節を感じられる食事の提供にも努めた。屋台は毎回好評でご利用者より満足を得られることが出来た。

(4) リハビリテーション

3ヶ月毎に評価と自宅訪問を行い、ご利用者の生活に即した個別機能訓練計画書及び運動器機能訓練計画書を作成し、機能及び筋力向上トレーニングを行った。結果、生活・身体機能の向上につながる事が出来た。また、様々な訓練に参加していただくことで、身体の残存機能の維持向上及び精神機能の安定に努めることが出来た。

パワーリハビリも好評で、運動機能向上訓練に参加されるご利用者は多い。理学療法や温熱療法・マッサージ療法（ウォーターベットマッサージ器）は高ニーズであり、ウォーターベットマッサージ器の待ち時間には、別途、簡易マッサージ器を利用して頂きこれも好評であった。

理学療法士を常勤で配置することにより、ご利用者の日々の健康状態や精神状態の把握が行え、個人に合った訓練内容の作成や変更などを円滑に行うことが出来ており、ご利用者やご家族との信頼関係も築くことが出来ている。又、在宅で

行える筋力増強訓練やADLにおける指導なども継続して行うことが出来た。

(5) レクリエーション

作業療法の目的も含めると共に、ご利用者のレベルに合わせた個別レクリエーション（大人の塗り絵・計算ドリル・漢字ドリル・将棋・囲碁・カレンダー作り・創作活動）、他に集団レクリエーション（カラオケ、サイコロ輪投げ等）を行ってきた。日常あまり交流のない方々もレクリエーションを通じて他者との関わりを持つことが出来た。

創作活動を行い、季節に応じた作品をご利用者と共に作り、施設玄関やダイニングなどに飾ることで、ご利用者の励みにもなった。

又、陶芸教室では、専門の指導者のもと希望されたご利用者自身が作品を創作し、持ち帰ることが出来、ご利用者やご家族にも好評であった。また陶芸作品も、施設玄関に展示している。

(6) 送迎・家族交流

送迎時は職員がご家族及びご利用者本人に身体状況及び施設等への連絡事項等を聞き、職員全員がその内容を把握するために「申し送りノート」にて確認を行った。又、利用の際にはその日の気づいた点や、健康チェック、入浴の有無、体重等を連絡ノートに明記することでご家族との交流に努めた。結果、返信を頂くこともありご自宅での状況確認にも活用できた。

(7) ケアマネージャー及びサービス提供機関との協力

情報を共有する為、定期的にカンファレンスを行い、ミーティング又は電話連絡等で状況把握に努めた。

その他、月初めに前月のご利用者の状態（日中の様子やケアプラン実行状況）をまとめ各ケアマネージャーに月次報告書として提出した。

送迎時等、ホームヘルパーと連絡を取り合い、ご利用者の状況把握に努めた。

(8) 業務改善

毎月、デイサービスの相談員会を、施設長、在宅部長と行なうことで、業務の見直しやケアの統一、デイサービスの方向性についての話し合いを行い、職員指導にも役立っている。

(9) その他

毎月事故検討会、デイ部会を開き、1ヶ月間のヒヤリハットや事故の検討、分析、対応の周知を行った。また行事や個別レクリエーション・創作、サービス内容について話し合い、反省・評価を次月の行事に役立てた。デイだよりを発行し、ご利用者やご家族にデイでの行事や日頃の様子を伝えた。

その他、公文式学習療法では、希望者の方々は総じて現状維持が出来たことから、ご利用者の満足も得られた。

平成 27 年度 デイサービスセンター樹蔭 実施状況 (利用人数)

月	人員数	運営日数	1日平均利用
4月	1088	26	41.85
5月	1130	26	43.46
6月	1153	26	44.35
7月	1215	27	45.00
8月	1112	26	42.77
9月	1106	26	42.54
10月	1218	27	45.11
11月	1101	25	44.04
12月	1132	26	43.54
1月	984	24	41.00
2月	973	25	38.92
3月	1068	27	39.56
計	13,280	311	42.70

平成 27 年度 年間行事

	年間行事	屋台
H27 年 4 月	季節レク (スイーツ)	春弁当
5 月	こいのぼり運動会	ラーメン
6 月	季節レク	冷やしそば
7 月	納涼祭	たいやき
8 月	夏祭り	アイスクリン
9 月	敬老会	敬老弁当
10 月	運動会	鯛そうめん
11 月	季節レク	にぎり寿司
12 月	クリスマス忘年会	ラーメン
H28 年 1 月	新年会	助六寿司
2 月	節分	バレンタインケーキ
3 月	ひなまつり	天津飯

4. デイサービスセンター 庵

(1) 基本事業

日常生活上の援助、健康状態の確認、機能訓練サービス、送迎サービス、入浴サービス、食事サービス、レクリエーション、口腔ケア、相談・助言に関する事

(2) 基本方針

小規模ならではの家庭的な雰囲気の中、要介護状態となった方が自宅や住み慣れた場所での生活が継続できるように、サービスを提供した。

デイに通う事で生活にリズムができ、在宅での閉じこもり防止、社会的孤立感の解消となっており、又、在宅生活が長く継続できるよう生活機能の維持向上にも努めた。

(3) 介護サービス

①通所介助計画

サービス担当者会にて、ご利用者やご家族、担当ケアマネ、多職種と居宅サービスに沿って検討し、個別のニーズ、目標をたて、通所介護計画を作成、ご利用者、ご家族の同意を得てサービスの提供が実施できた。

②機能訓練

個別機能訓練計画書に基づき、機能的及び筋力向上トレーニングを行った。短期は1ヶ月の評価、長期で3ヶ月に評価を行い、生活・身体機能の維持・向上が出来るように努めた。

マッサージ療法（マシーン、ウォーターベッド）は、新件、体験者の方も含めご利用者の皆さんに好評であった。

個別機能訓練Ⅱの目的である、残存する機能を活用して生活機能の維持、向上を図るために、具体的な目標にし、訓練前に目標伝える事により意欲向上がはかれた。訓練内容も変化を付けて行う事で更なる意欲向上や、マンネリ防止に努めた。

③年間行事

日本の風習行事や季節を感じる行事を企画し、実施することができた。準備も利用者と共にやる事でやりがいや達成感にもつながった。

誕生日会は個別に行い、おやつは、できるかぎり希望のお菓子を提供した。職員の出し物や、ご利用者にも踊りや歌を披露してもらい、一緒に楽しむことができた。誕生日カードも手作りで作成し喜ばれた。

④レクリエーション

個別レクでは、好みや興味のある事、昔やっていたことなどに取り組んでもらう事で個人が自信を持って楽しく過ごしていただける様に心掛けた。集団レクでは、ゲームを行いながら他者との交流をもってもらい、脳の活性化、発語

の促し、楽しみながら体を動かしてもらえた。また、一つの大きな壁画を利用者同士が協力し作品作りをした。できた作品を展示する事で、集団での達成感にも繋げることができた。

⑤食事

ご利用者の咀嚼、嚥下状態にあわせ食事形態にて、自力摂取を促す援助を行った。当日の体調や状態をみて食事形態を検討し、本人、又は家族に了承をいただき変更する等、柔軟に対応できた。献立においては、好みを聞きとりし利用日にあわせ好みの食事を提供する。旬なものをできるかぎり食材に取り入れる事で、季節感を感じてもらえる事ができご利用者から美味しいとの声もあり、残食も殆ど無かった。

⑥入浴

利用者個々の好みの時間や温度調節等、出来る限り細かな希望に沿った個浴を行った。民家の風呂のよさを楽しんでもらうとともに、安全面では、介護技術の向上に努め、今後も事故防止に努めて行きたい。

⑦口腔ケア

食事前に口腔体操を行い嚥下障害改善、食後は全員の方に声を掛け口腔ケアを行い清潔面、誤嚥防止になるよう努めた。

⑧健康管理

健康チェック、利用時の状態観察を行い、ご家族や、ケアマネへの報告、伝達が行えた。

⑨送迎及び家族との交流

送迎は常に安全運転を心がけ、安全面の注意を声掛けあった。

又、送迎時は職員が家族及びご利用者に身体状況及び意向を聞き、職員全員で確認し把握した。

写真付の連絡帳はご利用者やご家族に好評で、返信も増えてきており、家族との橋渡しの役割が出来ている。また、必要に応じて家族と電話連絡をとる事で、家族の意見や意向を聞き取れる体制が出来た。

(4) その他

①ケアマネージャー及び他サービス機関との連携

ご利用者、ご家族を中心としてサービスが円滑に提供できるように、情報共有のため定期的なカンファレンス、日頃の状態を電話連絡する等を行った。

②業務改善

新人には新人研修マニュアルに沿って、毎月研修を実施した。部会ではテーマ

を決め、勉強会を行いスキルアップをめざし、同時に、業務改善についても話し合い、より良いケアが出来るよう努めた。

③地域との交流

4月、11月は地区の清掃に参加、日頃も近所の方にはこちらから声をかけるようにし、今後も地域に根ざした施設となるようにしていきたい。

(5) 平成27年度 デイサービスセンター庵 実施状況 (利用人数)

月	人員数	運営日数	1日平均利用
4月	243	22	11.0
5月	228	21	10.9
6月	241	22	11.0
7月	240	23	10.4
8月	220	21	10.5
9月	224	22	10.2
10月	217	22	9.9
11月	212	21	10.1
12月	211	22	9.6
1月	206	20	10.3
2月	214	21	10.2
3月	250	23	10.9

(6) 平成 28 年度 年間行事

	年間行事
4 月	昔話
5 月	こいのぼり体育祭
6 月	茶道倶楽部
7 月	七夕、納涼祭
8 月	夏祭り
9 月	敬老会
10 月	大運動会
11 月	茶道倶楽部
12 月	クリスマス会
1 月	新年会
2 月	節分
3 月	ひな祭り会

5. ヘルパーステーションあおやぎ

(1) サービス内容

デイ（ショート）の送り出し 2 名、買い物同行 3 名、入浴・更衣・排泄・口腔ケア・清拭・移動介助などの身体介護が 8 名。

掃除・洗濯・買い物代行・調理などの生活援助のみ 20 名。

平成 26 年度と比べると、身体介護は減少、生活援助が多くなっている。

予防は、生活援助のみの利用だが、入浴見守りの援助もあった。

(2) 利用者数

平成 28 年 3 月末の利用者数は 43 名（介護 33 名、予防 10 名）であった。

また、平成 27 年度中の新件は介護 15 名、予防 1 名の計 16 名だった。

(3) 研修

月 1 回の施設内、事業所内研修、施設外研修、東部ブロック会の介護技術講習会に参加し、ホームヘルパーとしての資質向上に努めた。

- (4) 実習生受け入れ
平成27年度は、高知福祉専門学校3名の受け入れを行った。
- (5) 事故件数
平成27年度は、事故は0件であった。
- (6) その他
新件確保の活動として、他居宅等へ訪問、3件の依頼があった。

6. 居宅介護支援事業所 さわらび

ご本人又はご家族、地域の方に限らず電話や来訪により相談があれば介護保険制度等について説明し困りごとへのアドバイスを行った。介護サービス利用についての相談があった場合、利用方法・サービス内容・費用等について説明を行ない迅速にサービス利用開始に努めた。また、他施設や医療機関からの退所や退院等、在宅復帰に向けてのケアプラン作成依頼を可能な限り引き受けてきた。支援センターや医療機関に新件の紹介依頼に随時出向いたり高齢者支援センターからの困難事例も引き受けた。居宅サービス計画の依頼があった場合は、その心身状況・生活環境・利用者及び家族の希望を勘案し、アセスメントを行ない、自立支援を念頭に介護度の悪化防止に努めたケアプランを策定した。

ケアプランは居宅サービス計画ガイドラインを使用した。月1回以上の居宅訪問・サービスの提供・担当者会議・モニタリング・経過等の記録を行ない、サービス提供者との連絡調整を密にしながら適切にサービス提供が行なわれているかモニタリングしてきた。また事業所内で的確に業務が遂行されているかのチェック項目を作成し、書類の不備の無いように努めた。

個人情報の保護にも留意し、業務上知り得た情報については秘密を保持するよう周知徹底した。

研修には出来る限り参加し、職員の質の向上を図ると共に、他事業所との交流や意見交換を行なった。

介護予防ケアプラン作成の委託も受けており、自立度向上へ向けた支援を行なった。

24時間の連絡体制は交代制で実践できており、週1回定期的な事業所内の会議を行なう事により情報の伝達漏れの防止と、利用者の状況・プランの内容等の情報の共有と意見交換を行い全体の問題として捉えることができた。

利用者数の目標は月155名としていたが平均153名に留まったものの要介護プラン作成数は月平均約14名増加した。特定事業所集中減算については減算にならないように事業所の選定を行った。次年度も利用者数増加に努めたい。

入院や入居される利用者をできるだけ増やさないように自立支援に向けてあらゆる面から支えていけるよう努力したい。

《平成 27 年度 月別居宅サービス作成利用者数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護	126	124	126	132	132	133	137	133	128	126	120	122	1539
予防	24	24	25	25	23	23	25	28	25	23	23	25	293
計	150	148	151	157	155	156	162	161	153	149	143	147	1832

7. 高知市東部地域高齢者支援センター五台山出張所

(1) 総合相談

担当地域の主に 65 歳以上の高齢者等を対象として平成 27 年 4 月 1 日より平成 28 年 3 月 31 日までの一年間の相談支援延べ回数は 629 回であり、実人数は 275 人であった。個々の相談に対して対象者や家族の立場に立ち、ニーズに応じた支援が迅速に行なえるよう関係機関との連携も密にしながら支援に努めた。

(2) 地域活動

①各種講座の開催

* 認知症サポーター養成講座の開催やステップアップ研修を通じたマンパワーの把握

* 地域や介護事業所での健康講座開催

②宅老所・老人クラブ・障害者グループ・サロン等との交流及びサポート

③民生委員定例会への毎月の参加

④いきいき（かみかみ・しゃきしゃき）百歳体操への不定期訪問による状況確認・開催サポートや普及・啓発

(3) 個別支援業務

ニーズをしっかりと見極め、保健・医療・福祉などの生活全般にわたるケアを効果的に支援できるよう、中立的な立場に立った対応に努めた。

居宅介護支援事業所・サービス事業所・社協・民協・行政と連携した関わりをもった。

(4) その他

各種研修会にはできる限り参加し、専門的な知識を得てスキルアップにつながるよう努力した。

総括：平成 27 年 4 月 1 日時点の高知市の高齢化率は 27%であるのに対し、五台山出張所の担当地区である五台山・高須・介良各地区の高齢化率はそれぞれ、37.1%・19.7%・22.8%である。

依然として高齢化率・独居高齢者率共に上昇傾向にある。

相談業務においては早期対応に努め、要援護者や介護者の目線に立った対応を行った。

困難ケースについては見える事例検討会方式を通して支援の方向性や解決の糸口を見つける機会を得ることによって新たな視点をもった介入ができた。

認知症高齢者への支援においては新たな取り組みとして認知症初期集中支援事業の活用による

早期対応に関わることができた。

個別処遇ケースを通じて各種関係機関と積極的な連携を持つことによりネットワークを築き、幅を広げることによって高齢者や地域の支援活動に活かす努力をした。

住み慣れた自宅や地域で生活できるように、多機関と互いに連携・協力して一体的な支援を提供する役割を担っていける機関となるよう今後も努力していきたい。